



決勝レポート

2012/4/15 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：薄曇り 気温：15.5℃ 出走台数：17台

観客数：14日(土)15,000人、15日(日)28,000人 合計43,000人

晴天の春らしい天候のもと、2012年 第1戦 2&4 鈴鹿サーキットは開幕した。今季よりガソリン搭載量が少なくなり、またレース距離は250kmへと変更された。このことから、参加全車両 必然的に給油のためのピットストップを行うことに。燃費も含め、レースマネジメント、一瞬のチャンスも見逃さない戦略がレースの行方を左右することになる。

フロントローからの緊張のスタート。伊沢選手は、クラッチミートで失敗し出遅れ2つポジションを落として3番手に。一方 塚越選手は抜群のスタートを見せオープニングを首位で周回、その後も唯一43秒台をマークし、毎周0.2~0.5秒のペースで2位以下を引き離す。塚越選手1番手、伊沢選手3番手で周回を重ねていたが、14周目に塚越選手のエンジンから異音が発生する。エキゾーストパイプが割れたことが原因と思われたが、チームはそのままプッシュを続けることを決断。

前後の状況を読んで 先にピットインに動いたのは伊沢選手。しかし、給油時間が他車よりも長くかかってしまい、6位でコースへ戻ることとなった。

塚越選手は、手負いの車両ながら2位以下を引き離し続け、23周目にピットイン。

トラブルによるガソリン消費量の増大から、ピットストップが長くかかり、2位でコースへ戻ることに。しかしここから、首位奪還のハードアタックを随所で見せつけ観客を沸かせるも、僅かに届かない。結果、塚越選手2位、伊沢選手6位でレースを終了した。

40：伊沢 選手 6位

レーススタートからバランス悪く、レースペースは遅かったです。スタートでクラッチミートのミスもしてしまい、せっかくのポールスタートを生かし切れませんでした。そんな中でも、100分の何秒を刻む精神戦に強い心で臨みましたが、ポジションアップには届きませんでした。他チームの給油時間も、想定より短く、予選での速さを見せながらも、レースに関してはまだまだ検証と対策が必要です。より次元の高いところで戦えるよう、前進を続けます。

41：塚越 選手 2位

スタートはOK。F3時代にはいつも伊沢選手に抜かれていたので、落ち着いてしっかり行こうと思っていました。排気系のトラブルが発生してしまい、それがなければ0.2~0.3秒ほど速く走れたと思います。とにかく他車の燃費が良くても、差を広げるべくプッシュし続けましたが、首位を守れなかったことは悔しいです。

ただ、ここまでの積み重ねで、速さもついてきたと感じています。次戦以降、さらにパフォーマンスを上げて、すばらしい走りをお見せしたいです。